

ながおか

特別号
市政だより

発行：長岡市 編集：広報課
〒940-8501 新潟県長岡市幸町2の1の1
TEL 0258・35・1122 (代表)
URL：http://www.city.nagaoka.niigata.jp



里山に笑顔ふたたび
ふるさとの元気が
まちの明日をつくりま

震度7の大地震は
かけがえのないものを奪いました。
あれから2年
ふるさとを愛する思い、人と人との絆
人々の交流に支えられて
ふるさとは再生します。

10月23日の催し

■新潟県中越大地震
二周年合同追悼式
震災で犠牲になられた方々の
冥福を祈り、献花などを行いま
す。どなたでもご参加いただけ
ます。直接会場へお越しくださ
い。
時間 午前
10時～11時
会場 市立
劇場 園企
画課 39・
2204
▲昨年の合同追悼式(小千谷市)

■復興の灯り
犠牲になれ
た方々を追悼す
るとともに、復
興への決意を表
すろうそく千本
が点灯します(地震発生時刻の
午後5時56分に、大手通り十字
路のシンボルツリー(4本)の
イルミネーションも点灯)
時間 午後3時～7時 会場 大
手通り 園まちなか・考房 36
・3240
▲昨年の復興の集いで

長岡市長 森 氏 大



明日に続くふるさと再生へ

合言葉は「交流」です

中越地方の中山間に甚大な被害をもたらした中越大地震。全市を挙げた復興の取り組みも、いよいよ三年目を迎えます。
春先に完成をみたり災害公営住宅では入居された方々の新しいくらしが始まっています。また、集団移転地では住宅新築の機音が響いています。
その一方で、仮設住宅で三度目の冬を迎える方々がおられます。それぞれに事情があり、解決すべき課題があります。長岡市では、すべての人が生活を再建できるよう、今後も全力で支援してまいります。
震災からの二年間、被災地域の地すべり対策や道路、河川などのインフラ復旧に、学校や保育園などの施設復旧に、生活再建支援など、市の総力を挙げて取り組んできました。棚田や養鰻池など中山間地の生産基盤の復旧も大詰めを迎えています。
ふるさとの山河はいたるところ

震災の爪あとを残しながらも、くらしや「生業」の舞台として、その復旧を実感できるまでになりました。
この間、長岡市は、復興を応援し支援してくださった皆さんの方やNPO団体等との出会いに恵まれました。その実りある交流は今、市民や地域にしっかりと根を下ろし、それぞれに具体的ななたちをとりながら、復興を支える力となつていきます。
三年目を迎える「創造的復旧」。その歩みは、たくさんの人々との交流に支えられ、くらしやコミュニティの再生へと、新たな一歩を踏み出しました。さあ皆さん元氣を出して。合言葉は「交流」です。

2005.10 ～ 2006.10

復旧から復興へ この1年のあゆみ



▲中越市民防災安全大学が開校(市民センター・7月22日) ▲小国芸術村会館再オープン(山野田集落・4月29日) ▲仮設住宅の除雪作業(栃尾地域の北荷頃・2月18日) ▲十八番「連獅子」で被災者を勇気づける中村勘三郎さん(市立劇場・平成17年10月27日)

2005年(平成17年)

- 10/23 震災から1年、合同追悼式を開催
- 11/ 6 長岡市地震防災訓練を実施(青葉台地区)
10 中山間地型復興モデル住宅説明会を開催
- 12/10 御山町、濁沢町の一部、浦瀬町の一部の避難勧告を解除
17 小国地域の法末地区で法末自然の家やまびこが再開
28 高町、乙吉町の避難勧告を解除

2006年(平成18年)

- 1/ 1 和島村、寺泊町、栃尾市、与板町と合併
15 山古志地域の虫亀地区で2年ぶりにさいの神を開催
- 2/11 滝谷町、濁沢町の一部の避難勧告を解除
28 越路地域西谷地区の一部の避難勧告を解除
- 4/14 上除町で復興住宅の鍵を引き渡し
20 小国地域で復興住宅の鍵を引き渡し
24 森市長が小千谷市長、川口町長と災害メモリアル拠点整備に関する要望を泉田知事に提出
25 浦瀬町、濁沢町、越路地域西谷地区の一部の避難勧告を解除
29 小国地域の山野田地区で芸術村会館が再開
- 5/ 8 山古志会館内に山古志支所移転準備事務所を開設
- 7/ 4 山古志地域の虫亀診療所が再開
6 山古志地域の種芋原診療所が再開
7 山古志地域の梶金集落に送電再開
14 山古志地域の大久保集落に送電再開
14 民間企業等の7団体と災害時支援協定を締結
22 中越市民防災安全大学が開校
- 8/2,3 長岡まつり大花火大会で、10羽のフェニックスが夜空を舞う
12 濁沢町、越路地域の西谷地区の避難勧告と、山古志地域の油夫集落の避難指示を解除
17 山古志地域の竹沢保育園が再開
26 越路地域の国重要文化財長谷川邸復旧工事を一般公開
28 越路中学校が本校舎で授業を再開
30 村松町の避難勧告を解除
- 9/ 1 山古志支所を開設、歯科診療所が再開
1 中山間地の復興を支援する「山の暮らし再生推進室」を新設
1 太田小・中学校が現地で授業再開
3 国道291号全線開通
5 (社)中越防災安全推進機構を設立
6 山古志診療所が再開
17 牛の角突きを山古志地域の池谷闘牛場で開催
- 10/ 1 中越復興フェニックスマラソン&ウォークを開催
2 小国中学校が本校舎で授業再開
23 中越大地震から2年。合同追悼式などを開催(予定)



▲復興祈願花火フェニックスが打ち上げられた長岡まつり大花火大会(信濃川河川敷・8月2・3日)



▲約2年ぶりに山古志で開催された闘牛大会(池谷闘牛場・9月17日)



▲復興メモリアルのダルマが登場(太田地区・9月24日)



▲山古志支所が開設。本格的な復興に弾み(山古志支所前広場・9月1日)



▲耐震補強された本校舎で授業再開(越路中学校・8月28日)



▲治道からの温かい声援を受け、開通した国道291号を疾走(フェニックスマラソン・10月1日)

がんばろう長岡！

復興応援 メッセージ

震災以来、支援をいただいている方からのメッセージを紹介しています。



十八代目 中村勘三郎さん
(歌舞伎俳優)



昨年の10月、公演で何わせていただいた折、お客様の拍手がとても温かく、逆に元氣と勇氣をいただきました。被災された方々は今はまだ苦しいと思いますが、どうか頑張ってください。大好きな長岡を、これからも応援し続けます。

中尾 ミエさん (歌手)



地震の後、長岡に何った時は、自分に何が出来るのかわかりませんでした。お米づくりなら子どもや孫の代まで伝わり、生活の糧にもなるんじゃないかと思って仲間と一緒に田植や稲刈りなどお手伝いをさせていただきました。「災い転じて福となる」よう、頑張ってください。これからも復興を応援します。

平原 綾香さん (歌手)



昨年の長岡まつりの花火大会では、心を込めて「Jupiter」を歌わせていただきました。夜空に輝く不死鳥フェニックスを目の当たりにして、復興のためにみんなで手をとり合って努力されている事を思うと、自然と涙が出てきました。困難に負けない心の強さを感じていました。応援しています。頑張ってください。



▲復旧工事中の国道291号 (東竹沢地区・平成17年7月)



▲全線開通した国道291号 (平成18年9月)

梶

金地区で養鯉業を営む関幸作さんは、「国道二九一号の全線開通は山古志の人にとって大きな喜びです。山古志の暮らしの語が出るようになり、また、山古志に帰るの第一歩。養鯉池や田んぼの直しが必要です。喜んでばかりもいられません」と今の心境を語ります。

地震発生翌日、小千谷から六時間も歩いてようやく見たものは、変わり果てた自宅や苦しそうな鯉でした。でもそれを

また平和な村で暮らしたい

山古志地域・関 幸作さん



この地に 住み続ける

越路地域・大塚俊男さん



越路地域の西谷地区では、崖の崩落や地割れなどの被害により、約百五十世帯のうち、十三世帯が国の防災集団移転の対象となりました。地区内に建てられた仮設住宅には、今も二十四世帯が入居しています。崖の崩落防止工事が進み、安全性が確保されたため、八月十二日に避難勧告を解除。現在、集団移転団地では住宅の建設が急ピッチで進められています。

現在、家族六人で仮設住宅に暮らす大塚俊男さんは、西谷地区に集団移転を決めたひとり。『いろいろな事情で地区



▲地震で崖が崩落した西谷地区 (平成16年11月)



▲崩落した斜面を覆うコンクリート。写真左の集団移転団地では、住宅の建設がピークを迎えています (平成18年9月)

絆

人と人との絆。
地域を愛する心。
一人ひとりの思いで
元氣な長岡が戻ります。

「絆」を次の世代に引き継ぐ

高町・矢野一紀さん



長岡地域の高町は、道路が崩落し住宅も巻き込まれるなどの大きな被害を受けました。あれから二年、高町では地震の経験を次の世代に引き継ぎ取り組みを始めました。



▲復興を祝い桜の植樹をする子どもたち

この地で米をつくり続けたい

栃尾地域・山内喜一さん

「絆」は結ばれるだけではなく、引き継がれていかなければならない。こう語るのは、高町三・四丁目町内会長を務める矢野一紀さんです。復旧から復興へ、力強く歩む原動力になる。本当はみんな法末に戻って来たいんです。そのきっかけが足りなかった。宿泊施設やまびこイベントを開くと、雪の中仮設住宅などから約百人が集まりました。



法末の復興を支援し続けているNPOの土肥英生さんは、「法末の最大の魅力は、集落に暮らしている人々です。地域の人と一緒に定住・交流・働ける場を考えていきたい」と法末の再生に期待を寄せます。今年四月には、住民とNPOのメンバーで「法末たっしやら会」を結成。棚田や築百年以上の古民家を活用した交流、特産品づくりを進めています。

地震の経験を バネに新たな挑戦

小国地域・大橋昭司さん



十一年以上前から、中山間地の魅力を生かして都市との交流を続けてきた法末集落。地震により山や道路は崩落し、一時、全五十四世帯が法末の地を離れた。それから二年、集落の再生に向けた取り組みが始まりました。

「崩

れた山を見た時、もうここには戻れないと思っただけで、大橋昭司さんは、当時の思いを打ち明けます。高齢者が多く、集落での今後の生活に不安を持つ人が大勢いました。大橋さんたちは、住民の気持ちを集落を離れる前に、何かしらに震災直後から新しい集落づくりを挑みました。



▲「人との交流・信頼関係が大切」と、NPOのメンバーとともに米作りをする大橋さん(写真右)

小林 幸子さん (歌手)



月日の流れは早いもので、震災から二年の月日が経過しました。私も微力ながら、全国のコンサート会場にて義援金活動をして頂きましたが、しっかりと前を見据えて復興へと立ち向かう中越の皆さんの姿に、逆にパワーを頂いているような気持ちです。私の歌を通して少しでもお役に立てるよう、これからも長岡の皆さんと共に頑張ります。

田中 健さん (俳優)



数年前、テレビ番組のロケ地として訪れた山古志で、棚田の美しさと村の人の笑顔に癒されました。昨年、その時に知り合ったおじいちゃんを仮設住宅に訪ね、一緒に山に入って草刈りや野菜の種まきをしました。「ケンさん、種まきから始めるよ」といって笑った美しい笑顔が忘れられません。また、美しい山古志と再会できる日を楽しみにしています。

西山 菜希さん (モデル)



2年前、私はまだ長岡に住んでいて、震災を経験してしまいましたが、素敵なまちは忘れられませんが、大変な思いで生活している人がまだまだたくさんいます。今後は、素敵なまちは忘れられませんが、大変な思いで生活している人がまだまだたくさんいます。今後は、素敵なまちは忘れられませんが、大変な思いで生活している人がまだまだたくさんいます。

中山間地の復興に向け、「山の暮らし再生推進室」を新設

中山間地の復興は、現在、道路や棚田などのインフラ復旧の段階から、地域産業への再生、地域文化の再生、そして、地域住民のコミュニティの再生という「創造的復興」の段階に移っています。NPOなどの多様な事業主体が復興に向けた活動を展開しています。市は山の暮らし再生推進室を設置し、これらの活動を支援するとともに連携を図りながら、中山間地の創造的復興に取り組みます。

復旧・復興経費に1,069億円を計上

市税などの持ち出しは約1割

市の一般財源の持ち出しは、全体の1割程度にとどめることができました(下表)

1,069億円の財源内訳 (9月末日現在)	
国・県支出金	552億円(51.6%)
市債	219億円(20.5%)
その他	164億円(15.4%)
一般財源	134億円(12.5%)

仮設住宅の入居世帯数



農地

被災した約860haのうち、山古志地域、栃尾地域を除くすべての地域で復旧工事が終了しました。残りの約26haは農地までの進入が可能となり次第、着工します。

97%



学校

大きな被害を受けた太田小・中学校、越路中学校、小国中学校などで復旧工事が完了。仮設校舎などから子どもたちが、学校に戻っています。残る山古志小・中学校は10月30日に現地で再開予定です。新校舎

97%



下水道施設

液状化現象による管きよの浮上やマンホールの隆起が多発したため、液状化に強い改良土を使って復旧を進めました。今年度内に全地域での工事を終えて、復旧が完了します。

89%



道路

道路は、市内のいたるところで隆起や陥没、土砂崩れで寸断されるなど無数の被害を受けました。国・県道は約8割、市道は約5割の復旧を完了し、残りの工事を全力で進めています。

59%



復旧工事が着実に進んでいます (数値は10月1日現在の復旧率)